

報告

若手天文教育普及 WG (わか天) の活動 IV ～占星術をテーマとした研修会の実施報告～

栗田敦基 (東京大学)、若手天文教育普及 WG

1. はじめに

若手天文教育普及ワーキンググループ (わか天) では、「天文教育普及活動における若手のスキル向上」「若手同士のコミュニティ構築」「ベテランとのコネクション強化」を目標として、天文教育普及活動に携わる若手のスキル向上のための環境作りを目指した活動を行っています。その一環として、2024年6月10日に心理占星術研究家・翻訳家の鏡リュウジさんを講師に迎え、「天文教育普及活動への『占星術』の活用を考える」をテーマとしたオンライン研修会 (Zoom を使用) を開催しました。この記事では、本研修会を実施するに至った経緯と当日の様子を報告します。

なお、本研修会の企画にあたっては、WG 内の役割分担の都合上ほとんどの部分を筆頭著者の栗田が担当しました。そのため、栗田個人の考えが多分に含まれていることをご留意ください。以下、「筆者」と記載する箇所は栗田のことを指します。

2. わか天の Twitter で起きた「プチ炎上」

わか天では独自の Twitter (現 X) アカウント (@astro_for_young[1]) を運用しており、2023年7月頃にはわか天の認知拡大に向けて定期的に天文学宇宙のトピックをツイート (Twitter における投稿のこと) していました[2]。ツイートの内容はわか天メンバーの持ち回りによって作成し、作成者以外のわか天メンバーも可能な範囲で内容をチェックしてからツイートする、という体制をとっていました。その中で2023年7月18日に以下のようなツイートをを行いました。

〈今日は新月です。みなさんは「新月の願い

事」というのをご存知でしょうか。『新月の日に願い事をすると叶う…?』実は昔から人々に信じられてきたおまじないです。七夕の日に機会を逃してしまったという方、新月に願い事をしてみたいはいかがでしょう? (筆者によりハッシュタグや絵文字部分を改変)

すると数時間後、ツイートへのリプライ (返信) や引用リツイート (引用した上でツイート)、さらにそれらへのリプライなどで以下のようなものが寄せられました。

〈出典が気になる。〉

〈出典または引用元は大事だよ。〉

〈検索してヒットするのはスピリチュアル系ばかり。〉

〈七夕と一緒にしてはいけなさそう。〉

〈誰が信じているんだ?〉

(筆者によりツイートの意味が変わらないように言い回しを改変)

このように、本ツイートに対する指摘を多く受けるような、いわゆる「プチ炎上」状態になってしまいました。これを受け、最初のツイートから3時間後にわか天のアカウントから以下のツイートをを行いました。

〈本ツイートについて多くのご指摘等ありがとうございます。現在、担当者と情報元の確認を行っております。改めて内容について整理・把握ができ次第、適宜投稿させていただきます。〉

その後、グループチャットを中心にわか天メンバーで会議を実施し、本ツイートへの対応と、ツイート作成者の意図などを中心に議論を行いました。その上で、情報発信における出典の確認の重要性や、ツイート内容のチェック体制などの見直しを行い、Twitter 上

の対応としては、翌日にツイートにて謝罪する方針が立てられました。

Twitter 上での指摘の通り、出典や引用元の確認が重要であることは理解できますし、そこに不備があったことがわか天側の落ち度であることは全く否定できません。その一方で、あくまで筆者の主観ですが、Twitter での反応の中には「スピリチュアルもしくは占星術関連の話題のようであるから、(その内容にかかわらず) 発信は避けるべき」というニュアンスが含まれているように見えてしまうものもいくつかありました[3][4]。また、わか天の当該ツイートの作成担当者からは、新月の日に願い事をするのは幼い頃に聞いた風習で、今までずっと慣れ親しんできたものであった、という話も聞きました。そうであるならば、このような内容は必ずしも「発信を避けるべき」話題とは言えず、むしろ天文文化の話題のひとつになり得るのではないかと考えました。こういったことを通して、このような「実体験を伴う」星や宇宙に関する風習を、天文教育普及活動においてどのように扱うのが良いのだろうか、と疑問を持つようになりました。

3. 占星術に携わる人々との出会い

筆者は SNS において「リコット」と名乗って天文教育普及活動に従事しています。2023 年 7 月頃、筆者はリコットの Twitter アカウント (@ricot_astro[5]) にて Twitter スペース（音声のみのライブ配信のようなもの）を実施し、日常であった出来事や宇宙に関する話題を話すことでフォロワーと交流する施策を行っていました。そこで、上記のわか天のツイートがあった翌日の 2023 年 7 月 19 日、「新月の日に願い事をする」という風習に関して取り上げる Twitter スペースを実施しました。当初は、このような話題は天文宇宙に関する民俗に近い性質がある(と思う)

ので、扱い方は難しいけれどそれ自体を完全に否定することはできないのではないかと、という推測にとどめることを想定していましたが、Twitter スペースを実施してから 1 時間ほど経過した後、どうやら占星術に詳しい方がリスナーとして参加されているらしいことが判明しました。その後、具体的な記録はできていませんが[6]、結果として Twitter スペースに鏡リュウジさん（以下、鏡さん）がリスナーとして参加してくださり[7]、「新月の日に願い事をする」ことは占星術の文脈では「当たり前」の話題になっていることが分かりました。その後、筆者個人としては、Twitter スペースで出会った占星術に詳しい方や鏡さんと連絡を取ったり、占星術の講座のようなものを受けたりすることで少しずつ占星術を学び始めました。

天文学が科学であるのに対し、占星術は科学ではありません[8]。その一方で、「星を見て何かを考える」という点では双方に共通する部分も多いのではないかと思います。加えて、天文教育普及活動を行う上で占星術の話題が登場することも少なくありません（例：誕生星座）。それらを踏まえて、天文教育普及活動に携わる上で、占星術に関する理解を深めることによって少なからず得られるものがあるのではないかと考えようになりました。そこで、筆者は占星術に関する研修会の実施を提案し、わか天全体での相談を経て、2023 年 11 月に鏡さんに研修会における講演の打診を行いました[9]。結果として、鏡さんにご承諾いただくことができ、2024 年 6 月に本研修会を開催するに至りました[10]。

4. 占星術をテーマとした研修会を実施

鏡さんを講師に招いた研修会「天文教育普及活動への『占星術』の活用を考える」の開催に向けては、事前に一度オンラインで打ち合わせを行い、当日の流れやお話ししていた

だきたい事項の共有、また本研修会の目的などの認識の統一を行いました。本研修会の目的として、天文教育普及に携わる人々が占星術（や「スピリチュアル」）の理解を深めるためのきっかけを与えることを設定しました。そのためには、講演形式よりは対談形式のほうが適しているのではないかと考え、鏡さんを講師とした上、リコットを聞き手に配置し[11]、天文教育普及に携わる目線から話を聞きたいトピックを投げかけて鏡さんにお話しいただく、という形式を採用しました。

告知は2024年5月1日に開始し、本研究会のメーリングリストのほか、日本プラネタリウム協議会（JPA）のメーリングリストに案内を送信しました[12]。またX（旧Twitter）では、わか天のアカウントにて告知画像付きのものを投稿し、それをリコットのアカウントで引用するといった形で告知を実施しました。結果、申込者は84名となり、所属として「天文学」に関連のある方が50名程度、「占星術」に関連のある方が15名程度いらっしゃいました。その他の属性の方も含め、わか天が実施する活動の中でも一層多様な属性の方に参加していただけたものとなりました。

研修会においては、冒頭に研修会の概要やZoomの機能を説明した上、様々な考え・知識量・立場の方が参加しているという旨をご留意いただくように説明を行いました。その後、鏡さんとリコットの対談に移り、1時間程度のトーク型の研修会を実施しました。

以下、研修会中に出た話題の一部を紹介します（筆者が大幅に要約しており、話題の順序も一部変更しています）。

（鏡さん）天文学と占星術がクロスオーバーするようなイベントが実施できること自体、時代が変わったという印象。タブーとされているような風潮が多分にあった。占星術に携わる上で科学としての天文学を知ることは重

要であり、天文学に携わる上で占星術をツールとして使ってもらえることは嬉しい。その一方で、やはり占星術は科学ではないため、場合によっては科学教育に悪影響を与えてしまうことにもなりかねない。その活用の仕方はうまく考える必要がある。

（リコット）天文学・天文教育普及の側が占星術を「食わず嫌い」しているような風潮があるのは否めない。一方で、天文普及活動に携わる中で「自分の誕生星座は知っているけど、星空で見たことはない」という人に出会うことも少なくない。誕生星座は明らかに占星術的な話題であるため、占星術を活用できる余地はありそう。

（鏡さん）17世紀頃までは天文学と占星術は分離しているものではなかったが、そこから占星術的な要素を抜き取ることで近代の天文学が生まれたという経緯がある。これにより違う思考法があることが明らかになった。近代では、天文学と占星術は同じ土俵で比較できるようなものではない。

（リコット）占星術を勉強すると、12星座と性格が結びついていたり、惑星の逆行が生活に影響したり、といった考えがあることが分かる。やはりこのあたりが初心者目線では受け入れがたく、抵抗感があるのはとても理解できる。若干の胡散臭さというか……。

（鏡さん）近代の科学的な思考とは全く別のため、胡散臭いと思う感覚はその通り。ただし、もちろん占星術師にとっては占星術は合理的な考え方。それは言語の体系のようなものであり、人工的に作られた、ある種文化的に規定されたものとも考えられる。

初めて触れるものに抵抗感があるのは理解できる。その上、占星術は幸か不幸か自然科学的な要素（天体の運行など）に基づいているために、さらに抵抗感が増してしまうのではないかと思う。おみくじを引くことや、お守りを買うこととは違う感覚。

（リコット）おみくじや「神頼み」など、日常生活において非科学的な判断をする場面があると感じていたが、逆にそのような場面で占星術を持ち出すことで科学が裏にあるような気がしてしまい、ある意味怪しさを感じてしまうのだと思った。

また、占星術が天文学などの科学の体系とは別の言語である、という類推は腑に落ちた。そう考えると文脈が異なるものが多いのは当然で、それを知らないからこそその忌避感も理解できる。一方で、その文脈を知るためにはやはり占星術を学ぶ必要があり、占星術自体を知ることは重要そう。

（鏡さん）占星術の考えを信じるかどうかは別として、どのような枠組みであるかを勉強してもらえるのであれば嬉しい。時代を遡れば、ガリレオやケプラーが占星術師であったことは事実。彼らが何をしてきたかを知ることが重要だと思われる。

また現代において、糸川英夫氏による一般向けの入門書「細密占星術」[13]が出版された例もある。その他、野尻抱影氏が「スピリチュアル」に造詣が深く、「スピリチュアル」に関する書籍を翻訳した[14]という例もある。

（リコット）占星術と「スピリチュアル」は違う？

（鏡さん）一概に言うのは難しい。「スピリチュアル」が何を指しているか、ということも難しい。野尻氏の訳書[14]が対象としているのは「スピリチュアリズム（心霊主義）」で、死後の生命の存在を科学的に説明しようとするようなもの。その他、「スピリチュアリティ」もある。

（リコット）新月の日に願い事をするような風習は、「スピリチュアル」的な要素が大きいのか？

（鏡さん）そのような話題が占星術においても登場することはある。新月の日に新しいことを始めよう、といったように。昔から新月

の日に種まきをするのが良いなどという話題はあった。一方、新月の日に願ったら叶うといったことを広めたのは、おそらく「スピリチュアル」的な占星術師だと思われる。

（リコット）新月の日に新しいことを始める、願い事をする、などといった風習は、人から人へと伝わる、いわゆる伝承のようなものだと思う。七夕伝説や星の和名などと同様に、占星術もある意味では伝承のひとつであるとも言えそう。

（鏡さん）占星術を天文教育普及に活用する、という観点で思い当たるのは、例えば「スーパームーン」。これは占星術師リチャード・ノルが言い出した話題。

（リコット）「スーパームーン」は確かに最近流行り出している。「大きく見える満月」「1年の中で最大に見える満月」など定義が曖昧で、あくまで天文学の正式な用語ではないが、キャッチーであることは確か。類似の話題では「ストロベリームーン」なども流行り出しているが、こちらはまた別の文脈のはず。

5. 研修会を終えて

本研修会は、天文教育普及活動に携わる人々が占星術やその関連話題の理解を深めるきっかけを与えることができれば、と想定して企画しました。研修会当日はそれを超えた興味深い話題にまで踏み込むことができ、充実した機会を作ることができたのではないかと思います。

研修会後に実施したアンケートからは、天文学側から見た占星術や、占星術側から見た天文学の姿を知ることができたという声や、なんとなくタブーとされていた（いる）ような天文学と占星術の間話題を聞いて良かったという声など、好意的なご意見を多数いただきました。その一方、明確なテーマが無かったため漠然とした研修会だったというご意見もいただきました。本研修会ではあえて具

体的なテーマを決めず、天文学と占星術が交わるきっかけとして位置付けることを想定していたため、致し方なかった面はご容赦いただきたいものの、今後も天文学・天文教育普及と占星術が交わるような研修会を開催する意義は多くあるのではないかと考えることができました。

なお現在、わか天では天文学と占星術が交差する研修会の第2回を企画しています。詳細が決定し次第メーリングリスト等で告知する予定ですので、ご興味がある方はぜひご参加ください。

文献・注釈

- [1] https://x.com/astro_for_young
- [2] 本稿では研修会の実施に至った経緯を示すために複数のツイートを取り上げますが、本稿をきっかけにツイートした本人に強い批判が送られることは本意ではないため、そのような行為はお控えください。
- [3] 筆者はこの時点で「占星術」と「スピリチュアル」の違いをあまり理解しておらず、混同しています。
- [4] ツイートとして書かれている以上のことは想像することしかできないため、ツイートの真意は分かりません。しかし、筆者はこれまで経験してきた事柄から「天文教育普及に携わる人々の中で、占星術やスピリチュアルを“食わず嫌い”している人が少なくないのではないかと考えていたため、そのことと結びついて考えてしまった可能性があります。
- [5] https://x.com/ricot_astro
- [6] Twitter スペースを実施していたときは、まさか研修会を実施するまでに至るとは考えていなかったため、詳細な記録などは行っていないことをご容赦ください。
- [7] 当時の Twitter には「自分がフォローしているアカウントが参加している Twitter

スペース」が分かるようになっており、それを辿って本 Twitter スペースが発見されたのだと予想しています。

- [8] 鏡リュウジ(2017)『占星術の文化誌』, 株式会社原書房.
- [9] 上述の通り、占星術に対するネガティブな話題を少なからず含んでしまうこと、鏡さんの著書や実績、鏡さんと筆者との関係性などを総合し、鏡さんに打診することを判断しました。
- [10] 打診から研修会当日まで半年以上空いているのは、単に日程調整の問題です。
- [11] 筆者が本名で登場するより、リコットの名義を用いたほうが本研修会の周知などに対して利点が多いと考えたためです。
- [12] 筆者が JPA の会員のため、筆者自身で送信しました。
- [13] 糸川英夫 (1979) 『糸川英夫の細密占星術: “一億人分の一億” の運命算出法』, 主婦と生活社.
- [14] 例えば、オリバー・ロッジ著、野尻抱影訳 (1924) 『レイモンド: 人間永生の証験記録』, 奎運社.

2023-2024 年度のわか天メンバー

栗田敦基、小林星羅、齋藤有菜、佐藤優衣、鈴木悠太、原直誉、松井瀬奈、松尾たま希、松坂怜、村越麻友、渡邊良介 (計 11 名)。



栗田 敦基